



令和 6 年度

自 己 評 価 報 告 書

学校法人諏訪学園
山形医療技術専門学校

1. 自己評価について

専修学校における学校評価は、平成19年の学校教育法及び同施行規則の改正により、自己評価の実施・結果の公表に関する義務、及び学校関係者評価の実施・結果の公表に関する努力義務が課されています。本校では、「専修学校における学校評価ガイドライン」(文科省：平成25年3月)に基づき、**自己評価・学校関係者評価実施規程**を定め自己評価を行なっています。

2. 自己評価委員会

委員長	岩田正巳	校長
委員	杉原敏道	副校長
委員	長沼誠	教育部長
委員	磯部佳宏	総務部長
委員	武田貴好	教務課長
委員	船山貴子	理学療法学科長
委員	鈴木竜平	作業療法学科長

3. 自己評価の基本方針

自己評価により教育活動の質の向上、学校運営の改善強化をはかることともに、その過程を通じ教職員が学校の状況や目指すべき方向性を共有する。また、評価結果や改善方法を公表することにより、客観性、透明性を高める。

4. 教育目標並びに重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育目標

- 自ら学び、考え、行動する人材を育成する。
- 幅広い教養を身につけ、人間性の陶冶に努める。
- セラピストの基礎・基本となる知識・技能体得に努める。
- 専門職としての理念に基づき行動できる人材を育成する。
- 医の倫理に基づいた幅広い人格形成と社会のニーズに対応できる人材の育成に努める。

重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育目標の実現に向けて、次の重点目標を掲げる。

- ◎研修に積極的に参加し、学習の主体性を図るための研鑽に努める。
- ◎授業第一とし教育課程編成の研究・工夫に努める。
- ◎内部評価に加え、開かれた学校として外部評価を踏まえ、より充実した教育活動となるよう努める。
- ◎地域医療、イベント等に積極的に参加し、人とのふれあい、思いやりの心を育む。
- ◎授業、実習のほか特別講師による講話を開催し、他との対峙のあり方を育む。

5. 評価項目の達成及び取組状況

自 己 点 検 表

令和 6 年度

山形医療技術専門学校

1. 学校の教育目標

- 自ら学び、考え、行動する人材を育成する。
- 幅広い教養を身につけ、人間性の陶冶に努める。
- セラピストの基礎・基本となる知識・技能体得に努める。
- 専門職としての理念に基づき行動できる人材を育成する。
- 医の倫理に基づいた幅広い人格形成と社会のニーズに対応できる人材の育成に努める。

2. 重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育目標の実現に向けて、次の重点目標を掲げる。

- ◎研修に積極的に参加し、学修の主体性を図るための研鑽に努める。
- ◎授業第一とし教育課程編成の研究・工夫に努める。
- ◎内部評価に加え、開かれた学校として外部評価を踏まえ、より充実した教育活動となるよう努める。
- ◎地域医療、イベント等に積極的に参加し、人とのふれあい、思いやりの心を育む。
- ◎授業、実習のほかに特別講師による講話を開催し、他との対峙のあり方を育む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4		ほぼ適切・・・3	
	やや不適切・・・2		不適切・・・1	
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④	3	2	1
・学校における職業教育の特色を示しているか	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	④	3	2	1

① 現状と課題

教育理念・目標・育成人材像などの学内表示、ホームページ、シラバスへの掲載は継続的におこなっている。また、オープンキャンパスや高校訪問、入学時オリエンテーションでも積極的に伝えている。さらに、より具体的に本校の教育方針を周知するために、3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）を策定し、公表している。

学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、実習指導者会議などを通じての業界のニーズ把握にも積極的に努めている。

②今後の対策

3つのポリシーを、ホームページやパンフレット、募集要項等に掲載し、より具体的な教育方針、育成人材像の周知を図る。

学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、実習指導者会議などを通じて業界のニーズ把握にも継続的かつ積極的に努める。

現在の教育について振り返り、現状に即した教育目標、重点的に取り組むことが必要な目標や計画の見直しをおこなう。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4		ほぼ適切・・・3	
	やや不適切・・・2		不適切・・・1	
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。有効に機能しているか	④	3	2	1
・人事・給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
・教務、財務等の組織整備など、意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか	4	③	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	③	2	1

① 現状と課題

学校運営については、運営委員会、入試委員会、教務委員会を核とした委員会で協議の上、全体で意思決定をおこなっている。また、重要事項については、法人の理事会・評議員会に諮り承認を受けている。

事業計画については、年度末の総括を踏まえ、次年度の事業計画を策定している。

教務、財務等の組織は整備されており、意思決定システムについても整備されている。

ホームページを中心に本校に関する情報を発信している。

② 今後の対策

より安定した学校運営をおこなうために、運営方針の見直し、組織の整備を図る。喫緊の課題の解決、将来を見据えた事業を計画するためにワーキンググループを設置する。

引き続きホームページやSNSを通じ本校の教育活動等の情報公開を積極的におこなう。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4		ほぼ適切・・・3	
	やや不適切・・・2		不適切・・・1	
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学修時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置付けられているか。	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	③	2	1
・成績評価、単位認定進級・卒業判定の基準は明かになっているか。	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的位置づけはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

①現状と課題

学内教育の充実を図るため、授業における教員間の相互評価を継続的に実施し教育力の向上に努めるとともに、非常勤講師との連携をさらに図る必要がある。

教育課程編成委員会ならびに学校関係者評価委員会を通して、外部評価者から寄せられた意見を学内教育に反映する取り組みが行われている。また、学年ミーティングを行い、科目担当教員と担任との連携、学科内での共通認識をもつようにしている。今後も、非常勤講師も含めた連携を図り教育活動に反映させる取り組みを継続する。

臨床実習指導者会議はオンラインと対面のハイブリッド開催とした。実習指導者との連携をより密に行うことで、実習をスムーズに遂行できるように配慮した。

理学療法学科の教育活動については、学会や研修会にも積極的に参加し、教員個々の研鑽ならびに教育の質の向上に努めてきた。また、学年ミーティングを開催し、各学年における問題点や各科目の進捗状況等の情報の共有を図り、学生にとって効果的な講義になるよう努めた。

作業療法学科の教育活動については、学会や研修にも積極的に参加し、教員個々の研鑽に
ならびに教育力の向上に努めてきた。また、認定作業療法士取得のため、必要な研修への参
加および認定試験に臨み合格している。学年ミーティングについても積極的に開催し、各学年・
各教科間での意見交換をおこなった。意見交換時に示された課題としては、作業療法プロセス
(一連の流れ)に沿った授業展開の構築、より学生の学習意欲、習熟度を上げる教授方法の取
得など教員自身のさらなるスキルアップの必要性が示唆された。

②今後の対策

カリキュラム一連の流れを確認し、内容や時期等を検証してより学修効果が高まるよう見直して
いく。

教員間の授業評価に関しては、期間を設定し、評価、改善、再評価のサイクルを実施できるよ
うにする。また、学生からの授業評価では科目によって大きく差があることから、それらの原因を
分析しよりよい教育をおこなっていく。

実習に関しては今後も指導者と密に連携を取りながら、学生にとって学修効果の高い実習に
なるべく継続的に努める。

地域の包括的支援サービスの提供体制推進に対する教員の研修等を含め研鑽をおこない、
学内教育に反映させる必要がある。

理学療法学科では、科目間の連携を図り授業の進捗状況や学生の情報共有だけではなく、
内容や展開方法等も議論し、学生の特性に合わせてより良い教育を提供するための取り組みを
継続しておこなう。教員が参加した学会・セミナー等の内容を伝達する講習会の機会を増やすこ
とで情報を共有し、教員の専門的知識や教育の質の向上を図る。

作業療法学科では、昨年同様科目同士の関連性、作業療法の一連の流れに沿った教授法を
拡充する。そのために、専門領域にこだわらず担当を割り振り、どの領域においても教授できるよ
うに努めていく。また、教育部長指導のもと、教員個々の教授力の向上を目標に、教員間での授
業見学や授業検討を積極的におこない教育の質を図る。

また学会発表等の準備を計画的におこない、積極的に発信するように取り組む。研修会等の
伝達に関しても報告会等を増やすことで、情報を共有し教員の専門知識や教育力の向上を図っ
ていく。

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4		ほぼ適切・・・3	
	やや不適切・・・2		不適切・・・1	
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・留年率の低減が図られているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1

① 現状と課題

国家試験の合格率維持・向上のため、各学年において計画的に国家試験対策をおこなっている。また、普段から基礎学力の向上を図るような指導体制を強化し、科目担当と担任さらに学科間で連携しながら授業を行った。4 年次においては、各教員が数名の学生を担当しながら個別に指導し、徹底的に苦手分野を克服させている。

理学療法学科では、就職率ならびに国家試験合格率は引き続き 100%を達成することができた。学科としての取り組みとしては一定の成果があったものと考えるが、卒業者数は入学定員数を下回る結果となった。

留年・退学者について、1、2 年生は学習意欲の低下等により進路変更をする者が多くみられた。その対策として適宜個別面談を実施し、学生が相談しやすい環境づくりに努め、教員間でも情報を共有しながら対応している。しかし相談を経ずに突如退学の意志を示す学生も多く、学生の動向を的確に把握するという点においては課題が残る。3、4 年生における傾向としては、実習での不合格が主たる要因であり、特に情意面(コミュニケーション能力)での指摘がみられた。留年・退学率の低減を図るために、学外実習における対策強化を継続することはもちろんのこと、初年次からの関わり方を見直し、学生の動向を全教員の側面から支えることで成長に導けるよう粘り強い働きかけが必要である。

作業療法学科では、就職率ならびに国家試験合格率 100%を達成することができた。学科の取り組みとしては一定の効果があったものと考えるが、より効率的な教授方法や授業展開に課題もみられる。

留年・退学者については、学科総数が定員総数を割っていることから引き続き対応を強化しなければならない。今年度より進級に関する規定が変更されたことを受け、仮進級者に対する早期対応や単位習得のための指導など、今まで以上に個別対応が必要である。また、教育活動でも述べたが、各教員の教授力の向上、授業展開の見直しをおこない、学生の学習に対する意欲向上を図り、退学率の低減をめざす。さらに、情意面(精神機能面)による進路変更の者が若干名みられるため、早い段階で相談できる環境づくりや、教員側の気づきが必要である。

② 今後の対策

留年・退学率の低減を図るための対策として、3、4 年生に対しては実習で必要となる知識と技術の修得と、情意面に対するフォローを重点的におこなう。実習を意識した授業をおこない、より実践的な知識と技術の強化を図る。また、学生が受動的な学修ではなく、能動的に課題を持って学修に取り組めるような教育をおこなう。情意面への対策としてのスクールカウンセリングを継続し、学生の様々な問題の解決を援助し、総合的な教育活動を目指す。また、授業で学生が発言できる機会を増やし、コミュニケーションの苦手な学生も積極的に発言できる環境を提供する。さらに普段の学内において規則やマナーの遵守を徹底する。実習期間中は、実習の進捗が芳しくない学生や悩みを抱えている学生に対して、実習施設との連携を図りながら積極的にフォローをおこなう。さらに、実習前に行われる実習指導者会議を、指導者と学生の実習への導入がスムーズに行えるように企画する。また、1、2 年次の成績不振が留年・退学に直結していることから、

GPA の分析を行い、学業不振者には早期から対策をとっていく。

卒業生に対する学会発表や論文作成の支援も継続しておこなうとともに、卒業後のキャリアについて把握する。また、卒後のキャリア形成の一環として保育士免許取得を目指せる講座を開講している。その他にも、就職後に活用できるような資格取得を支援する講座を開講する。

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4		ほぼ適切・・・3	
	やや不適切・・・2		不適切・・・1	
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う体制は整備されているか	④	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

①現状と課題

学生支援については、クラス担任制を採用していることから担任を中心とした支援体制をとっている。また、平成 29 年度よりスクールカウンセラーによるカウンセリングを依頼し悩みを抱える学生への支援を行なっている。定期的に健康診断を行い、学生の健康維持に努めている。

課外活動に対しては、学生ボランティアの連絡調整や学生自治会からの要請があれば支援している。また学生のサークル活動を奨励し、今年度複数のサークルが発足した。

就職支援については、就職ガイダンスを開催し、多数の病院・施設からご参加いただいた。今後の開催時期について検討の余地がある。

②今後の対策

保護者との適切な連携を築くために、日常的な情報交換をおこない、ホームページ等で保護者に向けた情報提供等を継続していく。

学生の相談(進路・学校生活等)に対する支援体制は整備されているが、さらに支援体制を強化するように努めていく。

学生寮については遠方からの通学生、受験生に対して周知していく。

（６）教育環境

評価項目	適切・・・４		ほぼ適切・・・３	
	やや不適切・・・２		不適切・・・１	
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	４	③	２	１
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備されているか	④	３	２	１
・防災に対する体制は整備されているか	④	３	２	１

① 現状と課題

施設については、日常の点検に加え、法に定める点検、整備をおこなった。今年度は、情報処理室の PC の入れ替えをおこない、学生の教育環境の整備をおこなった。

臨床実習については、両学科とも円滑に実施できる体制をとっている。

防災については、大規模な地震の発生等に備え、建物の点検を定期的におこなうとともに、安否確認が迅速にできるよう体制を整備した。

② 今後の対策

施設設備の整備については、計画的に更新、入れ替えを行う。日常点検をおこなうとともに定期点検の際に状況把握に努め整備をおこなう。

臨床実習については、学生の負担を軽減することからも近隣の実習施設の確保に努める。

防災については、地域との連携を深め、一時的な避難拠点となるよう協議をおこなう。

（７）学生の受入れ募集

評価項目	適切・・・４		ほぼ適切・・・３	
	やや不適切・・・２		不適切・・・１	
・学生募集活動は適正に行われているか	④	３	２	１
・学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	④	３	２	１
・入学者選抜の制度や運営体制を整備し、公正に実施しているか	④	３	２	１
・学納金は妥当なものとなっているか	④	３	２	１

① 現状と課題

学生募集活動については、高校訪問、進路指導課の先生方への学校説明会、オープンキャンパス、進学ガイダンス等を実施している。県内各地区での出張講義を昨年度よりも回数を増やして実施した。冬のオープンキャンパスを新たに開催した。

オープンキャンパスでは、本校が求める学生像を十分理解した上で志願してもらうために、入試概要や教育方針、学生生活、国家試験・就職状況等について適切な情報提供をおこなっている。また、オープンキャンパスを含め本校開催のイベントに２回以上参加した場合、入試検定料を免除することとし、学校の魅力を伝える機会を増やすことで受験につながることを期待している。

しかしながら、令和７年度入試の志願者は昨年に引き続き作業療法学科で定員に満たなか

った。

② 今後の対策

現在行っている広報活動、学生募集活動を継続し、本校の魅力や特色をPRしていく。高校生の情報収集がスマートフォンによることから、スマートフォン対応のホームページにし SNS を利用した情報発信等をおこなっているが、ニーズを把握し、より魅力的なコンテンツにしていく必要がある。そのため、7年度ホームページをリニューアルし、より見やすく魅力あるものに変更する。また、広告媒体などの WEB を利用し、より広範囲への PR をする。

オープンキャンパスや進学ガイダンス等を通して、生徒や保護者に対し適切な情報を発信して学生募集に努める。また、体験内容に関しても、複数年参加する生徒もいることからマンネリ化しないように吟味していく。

県外の高校へのアプローチも引き続き行っていく。高校が業者を利用して行うガイダンスには積極的に参加できるようにする。特に秋田県・岩手県での募集活動を強化する。秋田県では専属の非常勤職員と連携しこれまで以上に効果的な広報について検討していく。岩手県については提携する病院との関係を深め、開催する体験会等ではより本校の魅力が伝わるようなプレゼンをおこなう。

入試については、総合型選抜を新たに実施する。これまで本校の推薦枠に漏れてしまい県外の専門学校を受験していた層の受験機会としたい。

昨今、入試については WEB 出願を利用する学校が増えてきている。また、受験者のニーズもあることから導入を検討していく。

(8) 財務

評価項目	適切・・・4	ほぼ適切・・・3		
	やや不適切・・・2	不適切・・・1		
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

①現状と課題

財務基盤は、収入の安定と数年間に渡り実施した経費節減の効果もあり安定している。

今年度大規模な設備投資はおこなっていない。

会計監査は年 3 回実施され学園監事による監査も年 1 回行われている。

財務情報の公開については、私立学校法に則り本校のホームページで学校法人諏訪学園の財務状況を公開している。

② 今後の対策

物価や光熱水費が高騰し、支出が増えていることからすべての経費の見直しをおこない効率の良い予算の執行をおこなう。

学校会計基準改正に伴う対応を速やかにおこなう。

(9) 法令順守

評価項目	適切・・・4		ほぼ適切・・・3	
	やや不適切・・・2		不適切・・・1	
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報保護に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 現状と課題

養成校として遵守すべき法令・ガイドライン等に基づき運営、教育をおこなっている。

個人情報については、適切に取り扱っている。

自己点検の結果については、学校関係者評価委員会の報告書と共に本校のホームページで公開している。今年度新たに理学療法士作業療法士養成校ガイドラインに定める自己点検の実施公表おこなった。

② 今後の対策

個人情報の保護については、システム上のセキュリティ対策を講じるとともに、教職員への啓発をおこなう。

自己点検・評価については、本校の現状を踏まえておこない、学校関係者の意見とともに運営、教育に活かす。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4		ほぼ適切・・・3	
	やや不適切・・・2		不適切・・・1	
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励支援しているか	④	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

① 現状と課題

理学療法学科では、山形県理学療法士会活動に積極的に貢献した。具体的には、県内で実施した実習指導者講習会において、講師として講義ならびに演習を行った。また、村山支部の症例検討会の会場として年4回施設を提供し、参加はもちろんのこと座長として会の運営に貢献した。さらに、山形市社会福祉協議会の依頼により、訪問ヘルパーならびに介護サービス責任者に対するリハビリテーションや介護に関する意見交換を実施した。また、認知症カフェや地域包括ケアシステムにおける介護予防事業についても依頼を受け参加した。

今年度より新たに、県内高校の部活動を対象にメディカルチェック事業を立ち上げ、25校からの要請を受け実施した。また、部活動における専任トレーナーや、大会での救護班への要請もあり、スポーツ障がいの予防や健康増進に貢献している。これらの活動は、学内業務と平行し今後

尚一層力を入れ、本校の認知度を拡げていく必要がある。

作業療法学科では、山形県作業療法士会において 1 名が理事(教育部担当)として活動し、その他の教員についても各委員会等へ積極的に貢献した。また、臨床実習指導者講習会の講師・ファシリテーターを引き受け、年 2 回実習指導者に講義および演習を行った。さらに、山形県作業療法士会主催の作業療法士生涯教育プログラムにおいて、基礎研修や選択研修の運営・講師など積極的に参加し貢献した。また、各市の要請による地域ケア会議にも積極的に参加し、地域包括ケアシステムによる地域医療推進に貢献している。次年度は山形県において東北作業療法学会が開催されるため、常任実行委員を中心に積極的に協力していく。

中学校や高校からの施設見学や職業体験等を積極的に受け入れている。山形県専修学校協会による中学校への出前講座では、5 校に訪問した。また本校の見学については中学・高校合わせて 9 校を受け入れた。

② 今後の対策

徐々にイベント等のボランティア依頼も増えてきている状況にある。そういった依頼には積極的に参加できるように学生へ周知していく。体育館やグラウンドの借用についての要望があることから、今後、地域への開放について検討する。

総 括

本校は、平成 26 年度から「専修学校における学校評価ガイドライン」(文科省：平成 25 年 3 月)に基づき、自己点検、評価を行なっている。

令和 2 年度入学生から指定規則改正に伴う新カリキュラムを適用し、授業を開始している。

就職率は、開校以来 100%を維持しており、国家試験の合格率については、両学科ともに 100%を達成できた。

以上の点を踏まえ令和 6 年度の自己点検・評価を実施した。各項目の総括は、以下のとおりである。

教育理念、目標

教育理念・目標・育成人材像などの学内表示、ホームページ、シラバスへの掲載は継続的におこなっている。また、オープンキャンパスや高校訪問、入学時オリエンテーションでも積極的に伝えている。さらに、より具体的に本校の教育方針を周知するために、3 つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）を策定し、公表している。

現在の教育について振り返り、現状に即した教育目標、重点的に取り組むことが必要な目標や計画の見直しを行なう。

学校運営

学校運営については、運営委員会、入試委員会、教務委員会を核とした委員会で協議の上、全体で意思決定をおこなっている。

より安定した学校運営をおこなうために、運営方針の見直し、組織の整備を図る。喫緊の課題の解決、将来を見据えた事業を計画するためにワーキンググループを設置する。

教育活動

教育理念や教育目標に沿った教育課程を編成している。また、資格取得に向けた対策、職業教育についての取組も十分に行なっている。授業評価の結果や教育課程編成委員会の意見や要望を取り入れより質の高い教育を行なっている。教員間の授業評価を継続的に実施し、学年ミーティングを通じてより連携を図っていく。カリキュラム一連の流れを確認し、内容や時期等を検証してより学修効果が高まるよう見直していく。

学修成果

国家試験の合格率は、両学科ともに 100%を達成した。また、就職率については、100%を維持している。しかし、卒業生の数は入学定員数を下回る状況が続いている。退学、留年については、臨床実習による成績不可が主な原因となっていることから様々な対策を講じ低減を図っている。

学生支援

高等教育修学支援新制度の対象校として今後も適切な運営を行い、体制を維持する。学生支援については、クラス担任制を採用していることから担任を中心とした支援体制をとっている。また、学生の健康管理、就職活動、課外活動等についても、継続して支援を行なう。

課外活動に対しては、学生ボランティアの連絡調整や学生自治会からの要請があれば支援す

る。また学生のサークル活動を奨励し、支援する体制を整えた。

教育環境

臨床実習については、両学科とも円滑に実施できる体制をとっている。

防災については、大規模な地震の発生等に備え、建物の点検を定期的に行うとともに、安否確認が迅速にできるよう体制を整備した。

学生受け入れ募集

学生募集活動については、高校訪問、進路指導課の先生方への学校説明会、オープンキャンパス、進学ガイダンス等を実施し、教育活動や国家試験・就職状況等を中心に情報提供を行なっている。

令和7年度入試の志願者は昨年に引き続き作業療法学科で定員に満たなかった。

財務

物価や光熱水費が高騰し、支出が増えていることからすべての経費の見直しをおこない効率の良い予算の執行をおこなう。

法令遵守

養成校として遵守すべき法令・ガイドライン等に基づき運営、教育を行なっている。

個人情報の保護について、システム上のセキュリティ対策を講じるとともに、教職員への啓発をおこなう。

社会貢献・地域貢献

県士会では教員が理事・監事として活動した。実習指導者講習会では講師として参加している。

徐々にイベント等のボランティア依頼も増えてきている状況にある。

自己点検で挙げられた課題と学校関係者評価委員会において出された意見や要望を取り入れより質の高い運営、教育を行なっていくこととする。